

兵庫県／総合衛生学院建替整備事業（神戸市長田区）が起工 ／施工は大豊建設JV

兵庫県が新長田駅南地区（神戸市長田区）に計画していた「県立総合衛生学院建替整備事業」が起工し、7日に現地で安全祈願祭が開かれた。建設地は神戸市が進めてきた震災復興市街地再開発の最終区画となる腕塚5第3工区（腕塚町5、敷地約2400平方メートル）。設計を内藤建築事務所、建築施工を大豊建設・TC神鋼不動産建設・益田工務店JVが担当。2024年6月に竣工し、同9月に供用開始する予定。

施設名称は「新長田キャンパスプラザ（仮称）」。医療・介護専門職養成学校の県立総合衛生学院（同区海運町）を新築移転し、県立大学と兵庫教育大学のサテライトキャンパスと一体化した教育複合ビルとなる。

規模はS造9階建て延べ約1万2000平方メートルで、1～4階に総合衛生学院の4学科が入居。5階の県立大学では企業人材の育成をテーマに、リカレント（学び直し）やスタートアップ、地場産業のDX導入などを支援する。6～8階に兵庫教育大学の現神戸ハーバーランドキャンパス（中央区）を移転し、9階は共用の大講堂・体育館を設ける。

式典には兵庫県の齋藤元彦知事をはじめ、神戸市の久元喜造市長、大豊建設の森下覚恵社長など関係者が多数出席。神事は駒林神社が斎主を務め、齋藤知事が鋤、森下社長が鍬を入れ、工事の安全を祈願した。

神事後のあいさつで齋藤知事は「新長田駅南地区の活性化のため、県として何ができるかを考え、2大学の協力を仰ぎながら人材育成拠点の整備にこぎつけることができた。日中は1日当たり約1000人の交流人口増加が見込まれ、周辺の経済効果が期待できる」と話し、久元市長は「震災からの復興を歩んできた新長田に素晴らしい施設が誕生することに大きな意義がある」と述べた。森下社長は「復興再開発の最後を飾る仕事に参画でき、身の引き締まる思いだ。後世に誇れる事業となるよう全力を尽くしたい」と決意を語った。

□井口哲也所長（大豊建設）の話□

「安全施工に努めていく。常に第三者優先を心掛け、搬入出時のルールを協力会社に徹底する」。



完成イメージ（兵庫県提供）



森下社長



齋藤知事



井口所長（大豊建設）